

都築 朋子 氏 学位審査結果の要旨

主査：塩島 一郎

副査：伊藤 誠二、中邨 智之

月経周期は月経期・増殖期・分泌期に分けられ、月経期直後から増殖期にかけては子宮内膜において著明な血管新生がみられるが、その血管新生のメカニズムについては不明な点が多い。そこで本研究ではヒト子宮内膜細胞の培養系を用いて、各種血管新生因子の発現が性ステロイドホルモンや低酸素刺激でどのように変動するかを検討した。

その結果、①月経期直後の低酸素刺激が転写因子 **HIF-1** を介して **VEGF** 産生を誘導すること、②増殖期のエストロゲンが **VEGF** と **Ang2** の発現を誘導しさらに血管新生を促進すること、③分泌期のプロゲステロンが **Ang1** の発現を誘導し血管成熟に寄与すること、が示され、月経周期に応じて性ステロイドホルモンや低酸素刺激が協調的に血管新生を制御していることが明らかになった。

子宮内膜の血管新生は着床や胎盤形成さらに子宮内膜症等の病態にも関連しており、子宮内膜の血管新生機構を明らかにした本研究はその臨床的意義が大きく、十分に学位に値するものと判断された。